

■学校経営のポイント

新型コロナウイルス「臨時休業」への適切な対応

小島 宏

新型コロナウイルスの感染拡大防止をねらいとして、小・中・高等学校と特別支援学校が突然の臨時休業になった。各教育委員会及び各学校は、唐突な事態に戸惑いながらも、ほとんどの学校が3月2日から春休みまでの臨時休校に踏み切った。

そこで、この緊急事態にどう対処したらよいか、あくまでも参考として、いくつかの具体例を紹介する。

休校の趣旨の説明

教育委員会からの「通知」を基にして休校の趣旨及び学校の基本方針、学校との連絡方法などを、保護者宛に「学校便り臨時号」を発行し、児童生徒を通じて配布。学校のHPにも掲載しておく。

休校中の家庭での過ごし方

児童生徒や保護者が、臨時休校によって困ることが少しでも軽くなるよう具体的な措置を講ずる。

- 家庭での生活（春休みを含めて早寝早起き朝ご飯など、規則正しい生活の奨励、不要の外出をしない、問題行動への注意、子どもだけの留守番の時はチャイム・電話などに出ない、等々）
- 学習への指導と支援（家庭学習の約束、家庭学習用の時間割の配布、教科書やノート、ドリル等の持ち帰りと学習の仕方、読書の奨励、等々）
- 健康観察（適度な運動の奨励、健康チェックカードの配布と毎日の確認、毎日朝晩2回の検温、異変を感じたらかかりつけの医師等に相談、等々）
- 家庭の事情に応じた情報提供（原則各家庭が対応するものだが、学童保育、学校の学習教室などの紹介、等々）

児童生徒や保護者との連絡と相談

児童生徒や保護者からの相談があった場合は、原則担任が直接に回答する。その際、個人情報の保護に留意しつつ記録をして共有しておき、学校として

の一貫性を確保する。また、一般性のあるものはHPに匿名で掲載することも考えられる。

また、例えば、児童生徒に週1回程度の電話連絡や健康確認を可能な範囲で行うことも検討する。

なお、不登校や児童虐待等、心配な児童生徒については、担任や関わりの深い教師が保護者や当該児童生徒に、十分な配慮をした上で適時連絡を取り、相談に乗ったり、助言したり、支援したりする。

休校中の情報提供

休校中の児童生徒や保護者への連絡、情報提供は、事前に方法を周知しておき、HPによる情報提供、校門に掲示、メールによる緊急連絡などを行う。

HPやスマホのない家庭に対しては、固定電話やファックスなど別途配慮し遺漏のないようにする。

卒業式・入学式への対応

児童生徒や保護者にとって、生き方や思い出づくりに関わる重要な卒業式や入学式をどう挙行するかは大きな課題である。教育委員会の方針を踏まえ、各学校の状況に応じて適切に行うようにする。

学習評価と進路指導

3月は期末及び学年末の評価、すなわち通知表、指導要録、学年修了、卒業認定、進学先への抄本の送付などの適切な処理をする必要がある。

また、児童生徒の進級、進学、就職など進路指導についても十分すぎる配慮をしたい。

教職員の勤務体制

教職員は原則として通常勤務である。学校の状況に応じて、時差勤務や年次休暇の取得を奨励する。

また、本年度のまとめや次年度の計画を立てるなど、有効に活用する発想も必要である。

(こじま・ひろし=元東京都公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●被害を最小限に抑え信頼を守るクライシスコミュニケーション！《好評発売中！》

なぜあの学校は危機対応を間違えたのか

【著】石川慶子 四六判／定価(本体 2,000 円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> をご利用ください。

